

経済倶楽部便り

◆東京◆ 2月中旬、二期会創立60周年記念のオペラ公演を聞く機会を得ました。演目は伊パルマ劇場との提携によるヴェルディの「ナブッコ」。24歳の俊英バテイストーニ氏の指揮に酔いしれ、二期会ならではの合唱も見事でしたが、中でも主役を担ったミラノ在住の上江準人氏の情感あふれるバリトンは秀逸でした。日本人の内向き志向が云々される中、少なくとも芸術文化ではバレーばかりでなく期待が膨らみます。

さて3月の講演会には、中岡望氏（東洋英和女学院大学教授）、三品和広氏（神戸大学大学院教授）、小菅信子氏（山梨学院大学教授）、澄川喜一氏（東京藝術大学名誉教授）、前田昌孝氏（日本経済研究センター主任研究員）をお招きします。新会員を紹介します。松野下正秀・電源開発総務部長。（塚田 紀史）

◆中部◆ 名古屋地区は中部電力の浜岡原子力発電所の停止理由とされた東海地震のほか、東南海や南海を合わせた「三連動地震」の影響が常々指摘される地震危険地帯にあります。そこで東洋経済の名古屋支社も今年1月下旬に大津通りに面し、名古屋証券取引所から歩いて1分にある2006年竣工のビルに移転しました。これまでのビルは東京オリピックが開催された1964年竣工のビルでした。支社はそこに竣工の年に入居しましたので、今回の移転は実に半世紀ぶりのイベントになります。移転に合わせてブリタニカの大百科事典や日本美術全集を処分しましたが、いずれも当時の応接セット版です。しかし、今やCDやインターネットで代替可能で、古書店でも引き取るころはありません。時代の変化を感じます。

3月の定例講演会は「日本の展望」で京都大学大学院の中西輝政教授、「政局動向」で朝日新聞の星浩編集委員を予定しています。（日暮良一）

社団法人経済倶楽部（東京）ご紹介

Q 東京の経済倶楽部の主な事業は何ですか。

A 毎週金曜日の12時40分から2時近くまで開かれる定例講演会がいちばんの事業で、東洋経済ビル9階のホールが会場です。年に約45回、毎週末に日本橋へ出かけるのを楽しみにしている会員が多数おられます。

講演はいずれも一流講師による充実したもので、経済、経営、政治、国際を中心に、時折、健康、教養のテーマまで幅広いものとなっています。講演を読みやすく編集した『経済倶楽部講演録』が毎月、届けられますので、欠席の場合はもちろん、出席した場合でも読み直してくださる会員がたくさんおられます。

さらに毎月の経済金融懇話会、物申す会（会員相互の勉強会でいずれも無料）のほか、有料で事業所見学会（年2回）、ミニ見学会（随時）、銷夏・忘年パーティ

イ、ゴルフ親睦会などがあります。毎週、講演会のあとホールで映画鑑賞会（無料）があり内外の名画が上映されますが、こちらはご家族も自由に参加できます。

Q 会員制度はどのような仕組みですか。

A 会員は約660人で、法人会員（3名連記）と個人会員からなっています。個人は1親等に限り名義書換が無料で、半年会費が4万2000円です。入会は会員の紹介が基本ですが、紹介のない場合でも入会可能です。会員は講演会の聴講、『経済倶楽部講演録』の講読、各種企画への参加、ホールや会議室利用・食事・書籍雑誌購入などで割引の特典があります。

Q 『経済倶楽部講演録』だけ講読したいのですが。

A そのようなご希望をしばしばいただきますが、『講演録』は経済倶楽部の会員しか定期購読できません。裏表紙に「定価525円」と書いてありますが、これは会員が折々、友人などに進呈したいと希望された場合などのためのものです。